

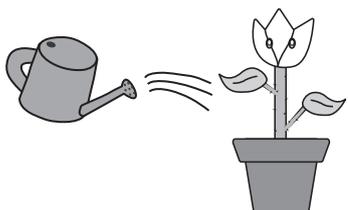
サボテン

のそだて方

日々の癒しとして植物を育てたいけど、水やりや手入れを頻繁にするのはちょっと大変。そんな方にオススメなのがサボテン！ この記事では比較的手のかからないサボテンの育て方を紹介していきます。皆さんもこれを読んでぜひサボテン栽培に挑戦を。 (都月)

手に入る場所

まずはサボテンの入手方法から。少しずつ成長していくサボテンが見たいという方や手ごろに育て始めたいという方には、百均やホームセンターの観葉植物コーナーで売られているサボテンが小さくて、また価格も安いのでオススメです。一方でサボテン専門店には他の店にはない珍種や好みのサボテンを見つけたい方向けです。



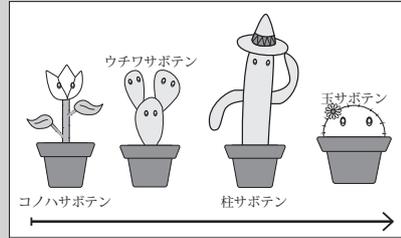
必要な道具

サボテンを買ったら次は道具！ 右に購入したほうが良いものを列挙しました。いずれもこだわらなければ百均で買えるようなものばかりなので、揃えるのに苦労しないでしょう。また専門店などでサボテンを植木鉢ごと購入した場合、そのまま使えば良いので土、鉢、ネットは購入する必要はありません。ハイドロボールは見栄えや虫害予防目的に、ピンセットは株分けに、液体肥料は花を咲かせたい時に使います。

Tool list

- サボテン用土
- 植木鉢
- 鉢底ネット
- ハイドロボール
- ピンセット
- 液体肥料
- サボテン

サボテンには非常に多くの種類があり、それらはコノハサボテン、ウチワサボテン、柱サボテン、玉サボテンの4種に大別されます。サボテンはコノハ、ウチワ、柱、玉サボテンの順に進化しており、ウチワサボテンまではトゲの形ではない葉が見られます。これは元々、乾季・雨季があった地域に生息していたサボテンの先祖が水分の貯蔵や蒸発の抑制目的に、その葉をトゲのように鋭く進化させていったからです。そんな様々なサボテンを、進化の過程として眺めるとするのも楽しいかも。



栽培はじめ

サボテンの鉢は左図のように配置するのがよいでしょう。鉢底の hidroボールと鉢底ネットは土の流出を防ぎ、水はけを良くしてくれます。土の上に hidroボールを敷くことで土ハネや虫害対策にもなります。また、栽培において次のことに注意しましょう。

栽培場所：直射日光のない風通しの良い場所
 水やりの頻度：春秋は土が乾いたらすぐに。夏冬は月一回
 水やりの時間：夏は夕方、冬は午前中
 春や秋にサボテンの成長を促したい時は、薄めた液体肥料を与えましょう。過剰な水やりは根腐れの原因となります。世話をしすぎないのもポイント！

株分けのススメ

しばらくサボテンを育てていると、元のサボテンから小さなサボテンが生えてくることがあります。これを子株と呼び、元のサボテンを親株と言います。子株の大きさが2～3cmを超えてきたら、その子株を親株から切り離す株分けをする必要があります。

子株をピンセット（つぶしそうなら根本をカッターナイフ）で分離し、切断面を乾燥させます。発根した子株を別の鉢で育てることで、サボテンの数を増やすことができます。

